



島根原発3号機を視察

4月に中国電力から島根原子力発電所3号機の概要説明を受けたことを踏まえ、近藤市長が5月22日、現地視察を行いました。

3号機の内部構造および安全対策を直接確認するためのもの。原子炉格納容器内部をはじめ、災害が発生した場合の緊急時対策所や燃料プールの冷却のための電力を確保するガスタービン発電機等の安全対策などを約3時間掛けて確認しました。

市では引き続き市民の安全確保を第一に考えていきます。



▶中国電力の職員から説明を受ける近藤市長（中央）。



▶パトロールを行う関係者。9月にも予定されています。

ストップ！不法投棄

ごみの不法投棄防止を目的として5月31日、島根県下一斉合同パトロールが行われました。安来市内では、県と市の職員、島根県産業廃棄物協会の会員が協力し安能農道を巡回。この日は、がれきや家庭ごみの投棄が複数箇所で見つかりました。

パトロールに参加した同協会の荒川和多利さんは「廃棄物を扱う業者はごみの処理に気を配っているが、一般の人は不法投棄に対する意識が低いと思う。自然を壊さないよう気をつけてほしい」と注意を呼びかけていました。

宇賀荘第二地区でほ場整備

伯太川東岸に広がる農地を大規模に整備する事業が始まり5月25日、起工式が行われました。計画では清瀬町や九重町など7町にまたがる93・3haを整備。また、後継者問題の解消や農作物の高付加価値化を目指すため、U・Iターンの新規就農者が暮らす農家住宅や農家レストランなどの建設が予定されています。

同地区の計画は先進的な取り組みとして国のモデル地区にも選ばれています。



▶清井町の現場付近。この事業は全国から注目を集めています。

姉妹都市を近藤市長が訪問

姉妹都市縁組を結んでから28年目になる大韓民国・密陽市（ミリヤン）を5月17日から3日間、近藤市長等が訪問しました。韓国政府が後押しする国際的なイベント「第60回アリラン大祝祭」が開催され、この祭にあわせて招待されたものです。

滞在中は、国内外から42万人が来場する祭の様子や外国人観光客の受け入れ対応等を視察。韓国は冬季オリンピック・パラリンピックが開催されたばかり。観光施策の先駆的な取り組みを参考にしていきます。



◀歓迎会で記念品を交換する近藤市長と朴一浩市長（左）。